

特集

危険な暑さに備える 助け合いの精神と自衛の準備



日本の夏が年々、暑くなっている。今年も環境省と気象庁は連日のように、熱中症警戒アラートを発令。危険な暑さが、容赦なく万人に襲い掛かった。今年最初の犠牲者は、沖縄県の20代男性。その後も高齢者を中心に多くの人が命を落とした。

深刻化する熱中症を前に、国は予防策を強化している。対策推進会議は死亡者数が1000人を超えないことを中期的な目標に設定。改正気候変動適応法が24年4月に全面施行された。同法では、一定の冷房機能を有する施設を「クーリングシェルター」(指定暑熱避難施設)として指定できる権限を市町村に与え、地域住民を暑さから守れるように整備した。

熱中症から身を守る方法は、当然ながら公助以外にもある。自助では暑熱

順化に始まり、小まめな水分・塩分の補給、適切なエアコン使用に努めること。熱中症警戒アラートやその判断基準である暑さ指数「WBGT」を知ることとも重要だ。

共助では、周囲に予防行動を促す「声かけ運動」や、指定外施設による「びと涼みスポット」の提供などが推奨されている。熱中症弱者と呼ばれる子どもや高齢者へのユニティが形成され、空調設備を整え、互いに助けをなせるように示されやすいシヨッ

全国に3092店舗としてホールは70、ホールが「街のオアシス」になることで、「パチンコ」に大きく近づく

続きはデジタルブックで
ご覧いただけます。

詳細はこちら▶